習志野市教育委員会会議録
（令和５年第９回定例会）

１　期　　日　　令和５年９月２７日（水）
市庁舎３階大会議室
開会時刻　　午後１時３０分
閉会時刻　　午後２時４０分

２　出席委員

教育長	小熊　隆
委員	古本　敬明
委員	赤澤　智津子
委員	高橋　浩之
委員	馬場　祐美

３　出席職員

学校教育部長	島本　博幸
生涯学習部長	片岡　利江
学校教育部参事	菅原　優
生涯学習部次長	芹澤　佐知子
学校教育部副参事	相澤　慶一
学校教育部・生涯学習部副技監	塩川　潔
教育総務課長	中野　充
学校教育課長	奥秋　裕司
指導課長	近藤　篤史
総合教育センター所長	小出　広恵
社会教育課長	越川　智子
中央公民館長	小久保　範彰
中央図書館長	岡野　重吾
学校教育部主幹	西郡　隆司
学校教育部主幹	河村　幸枝
学校教育部主幹（習志野高等学校事務長）	忍　貴弘
学校教育部主幹	奥山　昭子
学校教育部主幹	志摩　豊
生涯学習部主幹	勇　依子
学校教育課主任管理主事	寺嶋　耕一
指導課主任指導主事	伊坂　尚子

４　議題

第１　前回会議録の承認
第２　報告事項
（1）　臨時代理の報告について（令和4年度教育費決算について）
（2）　令和6年度習志野市立習志野高等学校入学者選抜における選抜・評価方法について
（3）　令和5年度全国学力・学習状況調査について
（4）　わくわく学びランドの実施状況について
（5）　習志野市図書館システムの更新について
第３　協議事項
協議第1号　次回教育委員会定例会の期日について
第４　その他

５　会議内容

小熊教育長
令和5年習志野市教育委員会第9回定例会の開会を宣言

小熊教育長
本会議の審議を傍聴したい旨の申し出はないが、習志野市教育委員会傍聴人規則に定めのある定員１０名を超える今後の傍聴の申し出について、受け入れが可能な範囲で受け入れることについて報告した。

小熊教育長
会議規則第１３条の規定により、報告事項（2）を非公開とし、非公開部分の会議録について、千葉県の定める公表日以降に開催予定である次回の定例会において会議録が承認された後に公開することについて諮り、全員異議なく提案どおり決定された。

小熊教育長
令和5年第8回定例会の会議録について承認を求め、承認された。

報告事項（1）　臨時代理の報告について（令和4年度教育費決算について）　（教育総務課）

小熊教育長が質疑なしと認め、報告事項（1）は終了した。

報告事項（3）　令和5年度全国学力・学習状況調査について　（総合教育センター）

小出総合教育センター所長
報告事項（3）「令和5年度全国学力・学習状況調査について」、説明する。
スライド資料1ページ目下段を御覧いただきたい。令和5年度の全国学力・学習状況調査は、4月１８日に実施し、小学校は国語と算数の2教科と児童質問紙、中学校は国語と数学、英語の3教科と生徒質問紙で実施した。中学校では、4年ぶり2度目となる英語の教科調査を実施した。質

問紙調査について、児童生徒質問紙は全ての学校で実施している。今後、全国学力・学習状況調査がオンラインによる解答に移行していくため、希望した小学校5校、中学校2校がオンラインで実施した。

スライド資料2ページ目上段を御覧いただきたい。令和5年度習志野市の小学校国語における平均正答率は71％である。全国と比較し3．8ポイント上回っている。全国1位は秋田県と石川県で、正答率は72％であり、ほぼ同じ正答率である。

スライド資料2ページ目下段を御覧いただきたい。中学校の国語における平均正答率は75％で、全国と比較し、5．2ポイント上回っている。全国1位の秋田県は74％であり、ほぼ同じ正答率である。

スライド資料3ページ目上段を御覧いただきたい。グラフは全国の平均正答率の値を100としたときのグラフで、赤い点線との幅が外枠に向けて広いほど、全国平均との差が大きいことを表している。国語については、比較的良い結果であったと認識しているが、さらに詳しく分析していくと、小学校では「書くこと」をはかる設問の正答率が「読むこと」、「話すこと」に比べて低い傾向であることがわかる。実数では、「書くこと」の本市の平均正答率は26．2％、全国は26．7％である。本市のみならず全国的にも正答できなかった児童が多くいたことが分かる。一方、中学校の「書くこと」は、「読むこと」、「話すこと」よりも高い傾向が見られた。実数では「書くこと」の本市の平均正答率は71％、全国が63．2％である。対象児童生徒が異なることを前提としても、小学校6年生から3年間で急激に向上している点について、今後、分析を進め、明らかにしていく。

スライド資料3ページ目下段を御覧いただきたい。今後の取り組みとしては、国語全体の授業では、小学校では、文章を読んだり書いたりする際に、一つの情報だけではなく、複数の文や文章を関係付けて読んで理解し、表現する学習を意図的に設定し、読む目的や書く目的を明確にし、複数の叙述を結び付けて読み、どの叙述からどのように考えたのかを具体的に伝えたり、複数の情報を根拠にあげ、分かる事実と自分の考えを書いたりする活動を取り入れるといった指導が必要である。また、図表やグラフのデータと文章との関係を具体的に捉え、活用する学習を取り入れ、図表やグラフのデータが示す情報は何か、文章のどの叙述と、どのように関連するのかを正確に捉えるために、複数の語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句を線でつないで図示したりするなど、情報の整理の仕方を具体的に指導していくことが必要である。

スライド資料4ページ目上段を御覧いただきたい。複数の文や文章を関係付けて読むことについて、実際の問題を示すと、資料1は運動の良さを、資料2は健康な体をつくる方法について、資料3は栄養の働きについて書かれている。それぞれの資料から分かること、分かったことをもとに自分ができそうなことを書き、文字制限の中でこのように複数の文や文章から条件に合った内容を書く力が必要となる。

スライド資料4ページ目下段を御覧いただきたい。さらに、小中学校共に、書く力の向上のために、問題文の正確な読み取りを意識させ、「すべての教科で教科書をしっかり読ませる」ことに取り組むよう周知していく。また、令和6年度以降実施するMEXCBTや全国学力・学習状況調査のCBT化に対応するため、「タブレット端末上のデジタルでの文章読み書き」を授業時間の中に意図的に設定することで、タブレット端末の有効活用を通して、デジタルリテラシーの向上を図ることが必要であると考える。その際「ナラシドライブラリー」の積極的な活用も有効であると考えている。

スライド資料5ページ目上段を御覧いただきたい。令和5年度習志野市の小学校算数における平均正答率は67％で、全国と比較し4．5ポイント上回っている。全国1位の東京都と石川県は、67％であり、同じ正答率となっている。

スライド資料5ページ目下段を御覧いただきたい。中学校の数学における平均正答率は58％で、全国と比較し、7．0ポイント上回っている。全国1位の石川県は56％であり、2ポイント上回った。

スライド資料6ページ目上段を御覧いただきたい。このように、算数、数学は比較的良い結果で

あったと認識しているが、さらに詳しく分析していくと、小学校では「図形」の設問の平均正答率が他の領域に比べて低い傾向がある。実数では、「図形」の本市の平均正答率は51．5%、全国は48．2%である。一方、中学校の「図形」の設問の平均正答率が小学校同様、他領域に比べて低い傾向が見られる。実数では「図形」の本市中学校の平均正答率は40．6%、全国が33．2%である。本市のみならず全国的にも正答できなかった生徒が多くいたという状況が分かる。対象の児童生徒が異なることを前提として、小学校6年生と中学校3年生の「図形」の設問に対する結果について、今後、分析を進め、明らかにしていく。

スライド資料6ページ目下段を御覧いただきたい。算数・数学の全体の今後の取り組みにおいては、1点目として、図形の性質について正しく理解するために、具体物を用いて実感を伴った理解ができるようにしていくこと、2点目として、図形の定義や面積を求める公式などの知識について、反復練習を通して定着を図ることに取り組んでいくことが必要である。

スライド資料7ページ目上段を御覧いただきたい。続いて、3点目として、記号による説明のもととなる「数学的表現」、「数学的概念」の理解や定着を図るため、生徒が口頭で説明する場面を設けること、4点目として、まず、「キーワードや記号などを穴埋めし説明する」、次に「キーワードを指定し記述説明する」というように段階的に記述に慣れ、自信をもたせる場面を設けること、5点目として、証明などの「記述上のルール」、「根拠の決定」の定着を図るため、繰り返し記述の練習をする場面を設けることが必要であると考えている。

スライド資料7ページ目下段を御覧いただきたい。中学校の英語における平均正答率は52%で、全国と比較し、6．4ポイント上回っている。全国1位の東京都が52%であり、同様の平均正答率となっている。

スライド資料8ページ目上段を御覧いただきたい。英語は比較的良い結果であったと認識しているが、さらに詳しく分析していくと、「話すこと【発表】」の設問の平均正答率が他領域に比べて極端に低い傾向がみられる。実数では、「話すこと【発表】」の本市中学校の平均正答率は17%、全国が12．4%である。これまでと同様、本市のみならず全国的にも正答できなかった生徒が多くいたという状況であることがわかる。生徒の発声の小ささや、ICT機器の不具合による誤答扱いが多かったという情報は得ているが、極端に低い結果の原因については、今後、分析を進め、明らかにしていく。このように、青いグラフをみると良い結果であることがわかるが、領域別正答率では、「ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する」問題の正答率が86．4%と高く、情報を正確に聞き取る力が身に付いている。選択式の問題の正答率は平均して高い傾向がある。「話すこと【発表】」の全国平均との比較は2倍の差がついているが、平均正答率でみると「話すこと【やりとり】」が19．0%、「話すこと【発表】」が9．3%と非常に低くなっており、課題のある点といえる。

スライド資料8ページ目下段を御覧いただきたい。英語の今後の授業においては、1点目として、英文を正しく書くことを高めるために、毎時間の中に英単語の定着を図る場面を意図的に設け、内容を考えながら英文を読む経験を多く設定すること、2点目として、一般動詞の時制の理解を深めるために、ICTを活用した場面設定を工夫し、自分の言葉で表現することを積み重ねていく取り組みが必要である。

スライド資料9ページ目上段を御覧いただきたい。続いて、3点目として、学習や経験で蓄積した英語での話す力・聞く力を駆使して、自分の力で質問したり答えたりする場面を設定し、4点目として、それを即興で伝え合う経験をさせること、5点目として、その際、ALTの支援や1人1台タブレット端末も活用し、繰り返し言語活動を行い発話できるようにすること、6点目として、音声面での支援を行ってから発話させたり、生徒自身が使用した英語を振り返ったり、場面に応じた表現方法を確認し、自信をもって英語を話せるように支援することが必要である。

スライド資料9ページ目下段を御覧いただきたい。質問紙による調査について、質問項目による回答と各教科と正答率の相関関係を示したものである。家庭において自分で計画を立てて勉強を

する方が正答率が高い傾向にあり、家庭学習が習慣化されている児童生徒ほど比較的正答率が高いことが分かる。児童生徒の割合をみると、小学校で「よくしている」と答えた児童は28．1%、生徒は14．7%と、中学校の方が計画を立てて勉強していると答えた割合が少なく、一方で、「全くしていない」と答えた児童が9．5%、生徒は12．2%と中学校の方が計画を立てて勉強していないと答えた割合が多くなっている。この原因については、今後、分析を進め、明らかにしていく。

スライド資料10ページ目上段を御覧いただきたい。学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている児童生徒ほど平均正答率が高い傾向にあり、進んで学ぶ姿勢を持っている児童生徒の学習の正答率が高いといえる。一方で、小学校と中学校共に「どちらかといえば当てはまらない」、「当てはまらない」と答えた割合の合計が約30%と伸びが見られない点においては、習慣化の固定化への影響が考えられるが、この原因については、今後、分析を進め、明らかにしていく。今後も、家庭学習が習慣化されていくよう家庭との連携を図っていく。

スライド資料10ページ目下段を御覧いただきたい。ICTの活用についての項目をまとめたものである。タブレット端末導入当初の令和3年度・4年度は、教員の授業でのタブレット活用について取り組んできたが、令和5年度は児童生徒の授業での積極的な有効利活用を意識し、授業に取り組むよう周知している。週1回以上使用していた児童生徒の平均正答率は比較的高くなっている。一方で「月1回以上」、「月1回未満」と答えた児童生徒の割合の合計は、小学校21．7%、中学校9%と減少していることから、中学校でのタブレット端末の活用頻度が上がっていることが分かる。今後も、児童生徒にとって必要感のあるタブレット端末の効果的な利活用を意識して、その方法を周知し積極的活用を推奨していく。

スライド資料11ページ目上段を御覧いただきたい。ICTの活用に関しては、ICTマイスター制度等を利用して、タブレット端末の授業での活用について校内研修等を実施したり、これまで効果のあったICT学習指導員、ICT支援員の活用を推進したりするなど、教員のICT活用、指導力の向上に努めていく。各教科と質問紙調査の結果から、本市の課題について明らかとなったことから、教育委員会としての今後の取り組みの方針について御説明する。

スライド資料11ページ目下段を御覧いただきたい。令和4年度の調査結果からは、「書く力」と「話す力」を高めるために、自分自身の言葉で考えを伝える力の育成が必要であることを「ならしの学力向上プラン」に示し、現在、各学校で取り組んでいるところである。合同訪問、授業研究をはじめとした学校訪問の際にも指導・助言を行っている。また、今後始まる公開研究会においても同様に、指導・助言を行っていく。

スライド資料12ページ目上段を御覧いただきたい。今年度の学力向上推進委員会の年間計画である。今回の報告に関しては、速報値であるが、本市の結果としては、全国のトップに近いところを維持している状況である。これまでの取り組みを継続していくこと、また、本市の課題は全国的課題と同じであることを踏まえ、教育委員会として、引き続き、学力向上推進委員会においてさらに分析や検討を進める中で、本市の子ども達の学力向上を推進していくための本市独自の取り組みについて明らかにしていく。そこで、検討、作成した内容については、紙面にまとめ、研修や会議、指導主事の学校訪問等をとおして、各学校に指導・助言していく、と概要を説明

小熊教育長

今後、各学校に訪問して指導していくとの説明であったが、指導課において、学力向上についてどのように指導していくのか説明していただきたい、と質問

近藤指導課長

各学校において、自校の状況を確認の上で分析を行ってもらい、市の方針も踏まえて、ICTの活用や書く力の向上など、学校ごとに足りない部分や取り組んでいただきたい内容を基本に、各

教科の指導主事から学校現場の管理職を含めた先生に指導していくように、直接伝えていきたいと考えている、と回答

小熊教育長
各学校の状況をしっかりと把握した上で、全体の流れと合わせて進めていくということでよいか、質問

近藤指導課長
御指摘のとおりである、と回答

高橋委員
指摘と質問をさせていただきたい。まず指摘については、本編資料の2ページ目及び3ページ目の平均正答率のグラフに記載されている項目名で「A話すこと」とあるが、昨年の資料においても、また、今回の報告書を読んでも「話すこと・聞くこと」の得点となっているようである。記載できる文字数の都合もあると思うが、「話すこと」と「話すこと・聞くこと」とでは、大分違うと思う。昨年と同じように、この表記は「話すこと・聞くこと」と記載した方がよいのではないか。
また、本編資料11ページ目に、ICTの活用に関する児童生徒質問紙調査についての結果が掲載されているが、昨年の資料では、どの程度使用したかの結果の後に、どんな場面で使用したのかという項目があったと思うが、今回はその質問はしなかったのか、それとも何か理由があって載せていないのか教えていただきたい、と質問

小出総合教育センター所長
掲載されている質問以外の項目もあったが、今回の状況を報告する上で関係するものをあえてピップアップし報告させていただいた、と回答

高橋委員
昨年、非常に良い成績であったのに、ICTの授業の活用場面で、その意見交換や思考整理、発表に使うという点が、非常に全国からも千葉県からも落ちており、今年はどのような結果になったのか関心があったため質問したところである。その結果を教えていただきたい、と質問

小出総合教育センター所長
確認の後、回答させていただきたい、と発言

高橋委員
報告書には選んで載せているのであれば、昨年課題になったものについては、良くなっても、悪いままでも、ぜひ掲載していただきたい、と要望

小出総合教育センター所長
御意見について承知した、と回答

赤澤委員
非常に丁寧に結果を分析して、取り組みを考えていると感じた。スライド資料11ページ目下段の「ならしの学力向上プラン」などの資料については、現場の先生によって授業に反映されて、その授業を受けた児童生徒の学力が向上するというフローとなると思うが、どういった方法で、現場の先生にこのプランの内容を伝達するのか。例えば、データそのものを提供するのか、それとも、

今回の資料のような教育委員会分析の詳しい資料を渡すのか。授業は実質的には先生方の考えのもと構成すると思うが、実際はどのように反映されていくのか、と質問

近藤指導課長
「ならしの学力向上プラン」は、１枚のパンフレットの形でまとめて、各学校に周知している。実際に先生方にどのようなことをしていただきたいかをはっきりわかる形で示している。例えば、具体的に書く力を高めたい場合には、国語の１教科に偏りがちであるが、全ての教科において自分の考えを書く場面を作るような具体的な活動等も踏まえて記したり、力がつくような学習形態の紹介を織り交ぜて記したりして、先生方に案内している、と回答

赤澤委員
調査の結果を受けて教育委員会がまとめた今回の報告書のように、どういうところが良かった、あるいは弱かった、また、全国平均と比べたデータは、現場の先生方には情報がいかないということなのか、と質問

近藤指導課長
分析結果は各学校に周知し、それぞれの教科ごとに分析等もしている。その上で、今後の活動を示し投げかけている、と回答

赤澤委員
「ならしの学力向上プラン」は、あくまで見出しのようなものであって、実際に授業に反映させるかどうかの判断材料になるような内容については、これとは別に個別に提示されるということか、と質問

近藤指導課長
取り組みを示すものとして「ならしの学力向上プラン」を周知している。分析結果を踏まえて、活動事例と、それによりどういった力が伸びるのか、そして取り組んでほしい内容をまとめたものを出している。学校ごとの分析結果ももちろん各学校で考慮していただいた上で、市から投げかけている方針に取り組んでいただいているところである、と回答

赤澤委員
このプランの位置付けは、「提案」ということか。学校はこの方針を基本に従うべきという位置付けなのか、それとも授業のプランを立てるときの参考とすればよいという位置付けなのか、その辺りはいかがか、と質問

小熊教育長
質疑の整理として、まず、指導課から「ならしの学力向上プラン」自体の説明をしていただきたい。これは、年度当初に作成したものであると思うが、たまたま今回の内容として近かったため、あえて今回もう一度掲載したものという理解でよいか、と質問

近藤指導課長
このプランは、学力学習状況調査を分析し、見えてきた市としての課題を踏まえ、克服するために取り組んでいただきたい手法を示すために例年作成しているものである、と回答

小熊教育長

ここに掲載されているものは今年度のスタートの時点のものであって、今回の学力状況調査を踏まえた内容については、改めて焦点を絞り作成していかなければならないもの、という理解でよいか、と質問

近藤指導課長
御指摘のとおりで、今年度の結果を受け、今後しっかり検討・分析して、また新たなプランを出していく必要があると考えている、と回答

赤澤委員
「ならしの学力向上プラン」は、今回の調査とは直接的には関係がないということでよいか、と質問

近藤指導課長
前回の結果を踏まえて、各学校に周知させていただいているものである、と回答

小出総合教育センター所長
今回の報告は速報値をもとに教育委員会として分析し、まとめたものである。各学校においても、検査結果が届いており分析しているところである。今後の流れとしては、各学校で分析したものを教育委員会に報告してもらい、最終的には国に報告することとなる。そのため、教育委員会のみでこの結果を分析していくということではなく、各学校の結果も踏まえた上で、最終的には学力向上推進委員会を中心に進めていくこととなる、と回答

小熊教育長
先程保留となっていた質疑について回答は可能か、と質問

小出総合教育センター所長
児童生徒質問用紙の内容については、年度によって異なっており、児童生徒質問紙調査の中で、どのような場面で使われているかを具体的に聞く質問はなかった。ICT機器の学校での利活用状況については、今後、総合教育センターにおいて調査をする予定であるため、その際に御報告させていただく、と回答

小熊教育長
速報値の提示とのことであるため、今後、詳しい調査・分析を行っていきたいと思っている、と発言

小熊教育長が他に質疑なしと認め、報告事項（3）は終了した。

報告事項（4） わくわく学びランドの実施状況について （総合教育センター）

小出総合教育センター所長
報告事項（4）「わくわく学びランドの実施状況について」、説明する。
スライド資料1ページ目下段を御覧いただきたい。本市の児童生徒の学力向上のため習志野市総合教育センターを活用して、科学的分野を中心に様々な学習体験ができる場をつくるという趣旨で始まった事業である。令和5年度も「科学的分野を中心に様々な体験学習の場「わくわく学

びランド」を実施し、学びに対する児童生徒の興味関心を育む。」ことを目的に、年間10回を計画している。内訳としては、科学教室3回、理科教室1回、学習教室6回である。基本的には児童を対象にしており、書き初め教室は中学3年生までを対象としている。

スライド資料2ページ目上段を御覧いただきたい。すでに科学教室3回、学習教室5回を実施した。今後の予定としては、10月17日に退職校長会の理科を専門とされる元校長先生による理科教室を実施する予定である。さらに、12月26日には、退職校長会の協力のもと、書き初め教室を行う予定である。今年度は、3つの科学教室の募集定員各45名に対して、応募総数延べ175名と多くの応募があった。学習教室では、5日間の合計応募人数が48名、当日参加者の合計が35名であり、1回の募集人数より少ない結果となった。

スライド資料2ページ目下段を御覧いただきたい。この結果から、応募人数を増やしていくことが今後の課題であると考えている。令和2年度・令和3年度は新型コロナウィルス感染症拡大防止のため中止した。令和4年度は、感染症対策、熱中症対策を施した上で少人数の開催とした。今年度は、募集定員を昨年度の倍以上の45名として実施したところである。経年変化をみると、課題としてあげた学習教室については、中止の2年間を境に参加者が減少していることがわかる。

スライド資料3ページ目上段を御覧いただきたい。科学教室について紹介する。7月26日に千葉工業大学と連携して、工藤助教授の専門分野である「結晶づくり」の科学教室を実施した。結晶ができる仕組みについて、実際に活動、実験をとおして分かりやすく教えてくださった。学生の優しいサポートのおかげで、子ども達が自分の好きなように液体を混ぜ合わせ、結晶を作ることができ、充実した科学体験となった。

スライド資料3ページ目下段を御覧いただきたい。7月27日には、県立佐倉高等学校と連携し、「ダンゴムシ博士になろう」というテーマで、講師の石島先生が節足動物のからだの仕組みについて、分かりやすく教えてくださった。ダンゴムシもエビも同じ節足動物の仲間であることを知り、実際にエビを解剖して体の仕組みを調べる子ども達の目は、好奇心で輝いていた。

スライド資料4ページ目上段を御覧いただきたい。8月17日には、習志野高等学校と連携し、講師の渡邉先生に、「葉脈標本をつくろう」というテーマで講話していただいた。植物の仕組みについて、専門的な内容を子ども達にとても分かりやすく教えてくださり、高校生の協力も受けながら、自分だけの葉脈標本づくりを行い、しおりにして一日の学習の成果として家に持ち帰った。時間を忘れて夢中になって作る子ども達の姿が見られた。

スライド資料4ページ目下段を御覧いただきたい。今年度の学習教室は、退職校長会と連携し、夏季休業中に5日間実施した。8月22日及び23日はプラッツ習志野中央公民館、24日及び25日は袖ケ浦公民館、28日は総合教育センターで学習教室を開催した。小学校3年生から6年生までの児童を対象に、一人ひとりの学習の分からないところを講師の先生方に丁寧に解説していただいた。最後の振り返りでは、参加した子ども達全員が、「教わって良かった」と答えており、中には、全ての回に応募し、参加して学習を進めた児童もいた。

スライド資料5ページ目上段を御覧いただきたい。わくわく学びランドの募集方法については、開催期日の約1か月前に各校に依頼文と広告を配付した。また、学習教室は、広報習志野7月1日号に掲載し、周知に取り組んできたが、次年度に向けて4点の検討事項を掲げている。

スライド資料5ページ目下段を御覧いただきたい。1点目の申し込みについては、往復はがきで対応してきたが、メールや汎用予約システムの活用への変更を考えている。2点目の開催時期については、学習教室の応募者数が伸びなかったことを踏まえ、お盆明けの5日連続開催ではなく、夏休み前期、夏休み後期の2部制とすることを検討していく。3点目の学習教室はコロナ禍前は中学生も対象となっていたことから、今後、指導していただく退職校長会とも相談し、対象とする子ども達について検討していく。4点目の周知方法については、応募者の増員が図れるように、科学教室、学習教室共に広報習志野へ掲載依頼するとともに、市ホームページにも掲載し市内への

周知を広げて対応していきたいと考えている、と概要を説明

馬場委員

科学教室は大盛況とのことで、関心が上がるきっかけにもなるため、素晴らしい取り組みであると感じた。学習教室の人数が少なかった点は残念であるが、内容的に大変良い取り組みのため、より多くの子ども達が利用できるような対策は取っていくべきだと思う。夏休みに開催が集中しているようだが、保護者の立場からすると、次の学年に上がる時に、前の学年での学習の不安な面を払拭できるように、例えば、春休みに数日設けることで、次年度に向けての学習のステップになるのではないか。夏休みは時間がたくさん取れるという理由もあるとは思うが、宿題も少ない春休みを開催日の案の一つとして検討していただきたいがいかがか、と質問

小出総合教育センター所長

いただいた御意見を含めて検討していきたい。参加した子ども達からは、家よりも集中できた、また、学習教室で家庭科の学習をして、これからの自分の将来に役立つことを教えてもらうことができて良かった、という声があった。子どもと先生の一対一の対応により様々なことを教えてもらい、身に付くような内容の検討が今後も必要であると考えている、と回答

馬場委員

ぜひ、多くの子ども達に知ってもらいたい。応募方法について、現在、往復はがきでの対応とのことであるが、これではハードルが高いと思う。小中学生の保護者であれば、メールや予約システムなどの方が慣れているような若い世代であると思うので、検討していただきたい、と要望

古本委員

学習教室は、今のままの方法ではあまりニーズがないのではないか。学習教室の実施場所がプラッツ習志野、袖ケ浦公民館、総合教育センターで各2時間に加えて、保護者からすると実施場所までの往復の時間もあり、コストパフォーマンスがあまりよくないように感じる。例えば、先程意見が出たように、学年と学年の間で補習を実施するなど、運営方法を考えていく必要があると思う。科学教室のように、往復はがきという応募の形態であっても参加希望者がいるのだから、このようなニーズに見合う内容を考えていただきたい。理科中心のわくわく学びランドとは別にして、学習を補ってあげるような内容についても検討した方が良いと思うがいかがか、と質問

小出総合教育センター所長

参加した子ども達は、自宅から近い場所で参加をするというケースが多いため、参加人数、開催場所、開催時期、また、学習教室の運営方法も含めて今後検討していきたい、と回答

古本委員

自宅の近所が開催場所になるのであれば、逆に学習教室の所要時間が2時間では、全然足りないものを補うための時間にするには少々厳しいと思う。例えば、午前と午後に実施する、あるいは、1度の実施で十分身に付くような内容の教室にするといった工夫など、ニーズに応じて検討していただきたい、と要望

高橋委員

学習教室は夏休みの宿題など、できなかった部分を個人指導のような形で対応するような内容との理解でよいか、と質問

小出総合教育センター所長
学習の苦手な部分やつまずいている部分を教えたり、夏休みの宿題を相談したりといったことが中心になる、と回答

高橋委員
そうであるならば、他の教室とは性質が異なると思うので、退職校長の先生方には少々御負担だが、予約制のような形態にして、例えば15分などで枠を取って、自分の分からないところを相談できるような形態も考えられると思うので、ぜひ検討していただきたい、と要望

小熊教育長が他に質疑なしと認め、報告事項（4）は終了した。

報告事項（5） 習志野市図書館システムの更新について （中央図書館）

勇生涯学習部主幹
報告事項（5）「習志野市図書館システムの更新について」、説明する。
スライド資料1ページ目下段を御覧いただきたい。図書館システムとは、資料の情報、利用者情報、貸出・返却業務、ホームページの運用等、図書館のサービス業務全てを管理しているシステムである。来月10月に更新する、新しい図書館システムについて御説明する。
スライド資料2ページ目上段を御覧いただきたい。次期システムにおける主な利用者サービスの向上内容は3点である。1点目は、「DX推進による市民サービスの向上」で、主に3つの機能がある。1つ目の機能は図書館カードの形態の多様化である。図書館カードのバーコードをスマートフォンの画面に表示できるようになり、これにより、図書館来館時にカードを持っていなくても本を借りることができる。また、スマートフォンでのバーコード表示が可能になることから、新たに図書館に利用登録される方で、カード不要の希望があれば、ちば電子申請サービスからの申請で利用者番号のみを発行できるようになるものである。加えて、あらかじめ図書館内で図書館カードと紐付けしたマイナンバーカードを図書館カードとして利用することができるようにするものである。
スライド資料2ページ目下段を御覧いただきたい。2つ目の機能は、予約の本が図書館に用意できたときに、市の公式LINEでお知らせする機能である。現在、図書館では、予約の本が用意できたときに、電話やメールで知らせているところであるが、日常的にLINEを使用している方には、予約本の確保が確認できるサービスとなる。3つ目の機能は移動図書館のオンライン化である。移動図書館とはバス型の図書館車で、近くに図書館がない地域の方のために、巡回ステーションを設け、資料の貸出しを行うサービスである。巡回ステーションで資料の貸出しや検索を行うために必要となる情報については、現在は、移動図書館が新習志野図書館を出発する前に、その時点での資料や利用者情報を抽出し、移動図書館用端末に保存し、ステーションに持参している。そのため、移動図書館が出発する前には書架にあった本が巡回中に貸出しになってしまうなど、情報のずれが生じており、ステーションで利用者から資料の状況についてお尋ねがあった際に、正確に回答できない状態であった。移動図書館の端末をWi－Fiを使ったオンライン対応に変更することにより、現地のステーションで図書館と同じようにリアルタイムで資料の状況がわかるようになる。
スライド資料3ページ目上段を御覧いただきたい。次期システムにおける主な利用者サービスの向上内容の2点目の内容は、「図書館システムをより使いやすく」にかかる4つの内容である。1つ目は、図書館ホームページのリニューアルである。現在のホームページはスマートフォンで見る場合と、パソコンやタブレットで見る場合では別の形式の画面になっており、スマートフォン版では一部非表示の内容がある。システム更新後は、スマートフォン、タブレット、パソコンいずれの端末

で画面を開いても、同じ内容をそれぞれの端末に適したサイズ、レイアウト構成で表示できるようになる。

スライド資料3ページ目下段を御覧いただきたい。2つ目は、市内で最も大きい中央図書館を対象にしたものであるが、中央図書館内に設置してある蔵書検索機OPACで蔵書検索をした際、中央図書館にお探しの本があった場合に本のある棚の場所を画面に表示するものである。閲覧室が複数に分かれる広い中央図書館において、利用者は本が探しやすくなるメリットがある。

スライド資料4ページ目上段を御覧いただきたい。3つ目も、自動貸出機を設置している中央図書館を対象にしたものであるが、自動貸出機の操作を簡略化するものである。現在、借りたい本を自動貸出機の上に置いた後に、貸出し完了まで3回の画面タッチが必要であるが、今後は貸出ボタンを1回押すだけで完了でき、貸出処理の時間を短縮することが可能となる。4つ目は、自動貸出機を設置していない東習志野図書館、新習志野図書館、谷津図書館を対象にした内容である。各図書館に設置している蔵書検索機OPACを、セルフ貸出機能を備えた多機能OPACに変更するものである。利用者はバーコードスキャナーで図書館カードや図書のバーコードを読み込んで貸出し手続きを行うことができる。OPACで資料を探している利用者もいるため、引き続きカウンターでの貸出しが主となると思われるが、OPACが空いているときは利用者自身でも貸出し処理が可能となる。

スライド資料4ページ目下段を御覧いただきたい。次期システムにおける主な利用者サービスの向上内容の3点目の内容は、「子どもの読書活動推進」である。子ども達が1人1台タブレットを持つようになり、学校の授業や家庭でインターネットを介して、図書館の蔵書を検索する機会も増えると思われる。子ども向けのホームページのデザインを、タブレットでも見やすく、子どもが進んで使いたくなるような明るいデザイン、よりやさしい日本語を使用したホームページに変更する。なお、ホームページのアイコンは、資料では動物のイラストとなっているが、実際のホームページでは、音楽のまち習志野の図書館として楽器のイラストを使用する。

スライド資料5ページ目を御覧いただきたい。今後の作業スケジュールとしては、9月25日から10月4日までは、システム更新のため臨時休館とし、事業者による現在の端末等の撤去と新たな端末等の設置や設定を行う。また、この期間中に、職員は新たに設置する機器の動作確認や操作訓練、移行された利用者情報や資料情報の点検も兼ねた蔵書点検を行い、正常に運営できるよう準備に万全を期す。その後、10月5日より次期システムの運用を開始しようとするものである、と概要を説明

古本委員

画期的なシステムの導入が進んで、市民が使いやすくなることは非常に良いことである。図書カードがなくても携帯で借りることができれば、非常に利便性が高いと感じる。予算の関係もあると思うが、良いサービスを進めていっていただきたい、と要望

小熊教育長が他に質疑なしと認め、報告事項（5）は終了した。

＜報告事項（2）については非公開。
ただし、千葉県の定める公表日である令和5年10月19日を経過したため、
会議録を公開とする。＞

報告事項（2）　令和6年度習志野市立習志野高等学校入学者選抜における選抜・評価方法について　（学校教育課）

寺嶋学校教育課主任管理主事

報告事項（2）「令和6年度習志野市立習志野高等学校入学者選抜における選抜・評価方法について」、説明する。2回の選抜を行うことで受検期間が長期化し、授業時間確保が難しくなるとともに受検生への負担が重くなるといった課題を改善するため、令和2年度より前期・後期選抜が一本化されてから4年目となった。習志野高等学校においては普通科、商業科それぞれで一般入学者選抜と2次募集の選抜・評価方法を作成することとなる。公正公平で透明性の確保された選抜の実施に向け、本編資料のとおり作成したものである。

スライド資料1ページ目下段を御覧いただきたい。期待する生徒像は、基本的な生活習慣が身についており、習志野高校の教育方針を理解し、意欲的に学校生活に取り組む生徒である。また学習意欲、スポーツ活動、文化的活動のいずれかにおいて優れ、強い意志と積極的な姿勢を有する生徒の入学を望んでいる。

スライド資料2ページ目上段を御覧いただきたい。普通科及び商業科においての選抜資料は、（1）学力検査、（2）調査書、（3）学校設定検査の3点である。

スライド資料2ページ目下段を御覧いただきたい。（1）学力検査では、5教科各100点満点の合計500点で評価する。その中で5点以下の教科があった場合は審議の対象となる。

スライド資料3ページ目上段を御覧いただきたい。（2）調査書では、中学校3年間の各教科の評定の合計を点数化する。ただし、評定に1があった場合や欠席が多い場合などは審議の対象とするものである。

スライド資料3ページ目下段を御覧いただきたい。（3）学校設定検査である自己表現のうち、口頭による自己表現の評価項目は、意欲・態度、テーマ・内容、スピーチの能力で、実技による自己表現の評価項目は、意欲・態度、基礎的技能、専門的技能について、各評価基準に基づき2名の評価者がそれぞれ3段階の評価を行い得点化する。検査時間は3分間である。

スライド資料4ページ目上段を御覧いただきたい。掲載の実施種目については、昨年度の例である。この種目の中から受検者が1つ選び、自己表現検査を行う。

スライド資料4ページ目下段を御覧いただきたい。実技による自己表現で、習志野高等学校が用意する用具の一部を掲載しているが、これらを用いて評価項目に沿った自己表現を行う。

スライド資料5ページ目上段を御覧いただきたい。一例をあげると、吹奏楽についての自己表現ではコントラバス以外の弦楽器・管楽器は各自持参し、打楽器の場合は小太鼓とマリンバのどちらかを受検者が選択し演奏する。その際、歌唱による自己表現を織り交ぜてもよいこととなる。

スライド資料5ページ目下段を御覧いただきたい。「基礎運動能力」は意欲態度、基礎的技能、専門的技能の3つの評価項目に沿った自己表現を行うものである。例えば、一人で行える体づくり運動、または習志野高等学校が用意するヨガマット、ラダー、とびなわを使用した運動などを行うこともできる。中学校時代の部活動が実技による自己表現種目にない場合、この基礎運動能力、口頭による自己表現、また、他の種目を選択することも可能である。

スライド資料6ページ目上段を御覧いただきたい。普通科の選抜方法としては、御覧の各評価資料の総得点により順位をつけ、資料を慎重に審議しながら入学許可候補者を選抜する。まずは、市内優先入学として、本人及びその保護者の住民登録が習志野市にあり、実際に居住し、習志野市立中学校を令和6年3月卒業見込みの者を優先とし、普通科募集人員の20％程度を確保する。そして、第1段階目として、受検者数が募集人員以内の場合は受検者数の60％を、募集人員を超えた場合には募集人員の60％までを入学許可候補者として選ぶ。

スライド資料6ページ目下段を御覧いただきたい。優先入学、第1段階目で決まらなかった者については、学力検査の得点500点、調査書の得点135点、学校設定検査の得点300点、総得点935点により順位をつけ、慎重に審議をしながら募集人員までを入学許可候補者とする。

スライド資料7ページ目上段を御覧いただきたい。商業科においては、普通科同様の選抜資料・評価項目及び評価基準を用いて、学力検査、調査書及び学校設定検査の得点を全て合計し

た総得点により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、募集人員までの入学許可候補者とする。

スライド資料7ページ目下段を御覧いただきたい。第2次募集が必要となった場合の普通科及び商業科における選抜資料は、（1）調査書、（2）面接、（3）作文の3点である。

スライド資料8ページ目上段を御覧いただきたい。（1）調査書においては、中学校3年間の各教科の評定の合計を点数化する。ただし、評定に1があった場合や欠席が多い場合などは審議の対象とする。

スライド資料8ページ目下段を御覧いただきたい。（2）面接及び（3）作文については、3つの評価項目について、2名の評価者が評価基準に基づきそれぞれ3段階で評価を行い得点化する。

スライド資料9ページ目上段を御覧いただきたい。2次募集では普通科・商業科ともに調査書、面接及び作文の得点を全て合計した総得点により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら2次募集の募集人員までを入学許可候補者として選抜する。

スライド資料9ページ目下段を御覧いただきたい。令和6年度入学者選抜に向け、習志野高校の特色を活かしつつ、公正・公平で透明性が確保された選抜を実施できるよう、準備を進めていく。なお、この選抜・評価方法については、情報公開解禁日の令和5年10月19日に全ての千葉県内公立高等学校ホームページにて公開となる予定であることから、本情報の取り扱いについて、御留意いただきたい、と概要を説明

小熊教育長が質疑なしと認め、報告事項（2）は終了した。

小熊教育長

令和5年習志野市教育委員会第9回定例会の閉会を宣言